

## 自閉症スペクトラムとは

信州大学病院子どものこころ診療部長

本 田 秀 夫

（聞き手 齊藤郁夫）

**齊藤** 自閉症スペクトラムということでおうかがいします。

自閉症スペクトラムという名前は最近のものなのでしょうか。

**本田** 専門家の間ではかなり以前からこの言葉は使われていたのですけれども、DSM-5 というアメリカで2013年に出された診断基準で初めて正式に採用された言葉です。

**齊藤** それが日本でも一般的になってきていると。

**本田** そうですね。

**齊藤** それ以前は違った名前だったのですか。

**本田** 広汎性発達障害という言葉が主に使われていました。

**齊藤** 今の自閉症スペクトラムの頻度はどのぐらいなのでしょう。

**本田** 韓国で最近出たデータですと、2.64%以上と出ているのですけれども、私どもが厚生労働科学研究で行っている日本の研究では、地域にもよりますが、おおむね2～5%の頻度が報告されています。

**齊藤** 1クラスに1人、あるいは0.5人ということですか。

**本田** そういうことになります。

**齊藤** 成長してもこれは残るのでしょうか。

**本田** おおむね改善はしてくるのですけれども、軽い方でも性格特徴のよくなかたちでうっすらと残るようになる方が多いと思います。

**齊藤** 自閉症スペクトラムの特徴にはどういふものがあるのでしょうか。

**本田** 一番軽い方ですと、大人になった段階で対人関係の微妙な調整がうまくいかないということが一つ。もう一つは、自分のやり方、ペース、興味を人間関係よりも優先したいという気持ちがとても強い。そこが特徴になります。

**齊藤** 2つの特徴ということですが、対人関係とはどういうことでしょうか。

**本田** 例えば、電話がかかってきて「〇〇さん、いますか」と言われたときに、「はい、います」と答えて終わ

りにする方はあまりいないですよ。でも、質問の内容は「〇〇さん、いまですか」ですから、本当はイエス・ノーで答える質問なのですけれども、我々はそれを聞いたときに本能的に、いたら替わってくれというメッセージを受け取るわけです。そういう言葉の裏にあるメッセージを受け取る力、暗黙の了解のようなものを直感的に学び取れないところがあるのです。ですから、ところどころで文脈がずれてしまったり、会話がちぐはぐになってしまったり、そういうところがあります。

**齊藤** こだわりのほうはどうなのでしょうか。

**本田** あるものに熱中すると、徹底的にそれを深く追求して、いわゆるオタク趣味のように詳しくなる方がいたり、あと何かをやるときには、このやり方でやらないと絶対に許せないという方がいたり、あとは自分のルールをいったんこうと決めると、そのルールがちょっとでも破られると、ものすごく不安や怒りを感じたり、そういう方々があります。

**齊藤** そうやってこだわっていくわけですね。

**本田** そうですね。

**齊藤** そういう方がかなりいるということですが、日本で自閉症スペクトラムが関心を集めてきたのはいつごろからですか。

**本田** わが国では1990年代ごろから、

特に子どもの領域で関心がだんだん高まってきていました。2000年代に入ってから主として思春期以降、あるいは成人期の自閉症スペクトラムの方々への関心が高まってきています。

**齊藤** それは何らかの事件と関係あるのですか。

**本田** 興味を持たれたきっかけの一つに、独特な理由で罪を犯した方々の一部に自閉症スペクトラムと診断がされた方がいたというのはあるかもしれません。ただ、それだけではないと思います。自閉症スペクトラムに関する知識が広まるとともに、自分たちの周りの職場や家庭やクラスの中にそういった特徴のある方が少なからずいるということに皆さんが気づいてきたということだと思います。

**齊藤** 生きていくのに辛いというか、ストレスが多い状況になって、それがまた症状を起こしてくるようなことはあるのでしょうか。

**本田** ものの感じ方、考え方が少数派ですと、疎外感を味わったり、ほかの人たちには通じるのだけれども、自分には通じないということで、自信を失ったりします。こういうのを二次的な症状というのですが、二次的にうつになったり、不安が強くなった方々の方がいます。

**齊藤** 一見、うつ病みたいなことになるのでしょうか。

**本田** そうですね。初めはうつ病か

もしれないということで病院に来られて、よくよく調べたら自閉症スペクトラムが背景にあったという方もいます。

**齊藤** 今の2つの特徴を踏まえて診断していくとなると、具体的な診断のポイントはどういうことになるのですか。

**本田** まずは面接の中で、こちらの話にきちんとテンポよくついてこれるかをぜひ見ていただきたいと思います。それから、ものの関係性について話をするときには非常に流暢に話す方が多いのですけれども、対人関係の話題になったときに流暢さに欠けて、やや話が詰まったりする方がいます。さらに、興味の領域に関して、好きなことですか趣味などをたずねていただいて、どのくらい雄弁に語るのかというのを聞いていただくと、そのこだわり方が見られるかもしれません。

**齊藤** 趣味の領域を非常に深く、詳しく話してくれるということですか。

**本田** そうですね。

**齊藤** 大人では先ほどのような問題ということですが、子どものうちは学校での問題ということになりますか。

**本田** 小学生ぐらいまでは、どちらかという、本人の困り感というよりは、周りが問題を感じることが多いです。例えば授業中に1人だけ授業に参加しようとしなとか、先生が指示をしても、なかなかうまく切り替えられ

ないとか、そういったちょっとマイペースな行動が問題になることが多いですね。

**齊藤** そういうことに気がついて、早めにその特徴を理解してあげることが必要なのでしょうか。

**本田** そうだと思います。

**齊藤** それは親も重要、周りも重要ということでしょうか。

**本田** そうですね。特に親御さんが、多数派に合わせるような教育をするというよりは、少数派の個性を生かすという発想に切り替えていただくことがとても大事になってきます。そういう意味で親御さんがこういった特徴に早くから気づいて、自閉症スペクトラムについて学んでいただいて、対応の仕方を考えていただくということが一番の改善策になると思います。

**齊藤** 小学生も受験戦争になってきますけれども、なかなかその辺も難しいのでしょうか。

**本田** 受験が一概にいけないわけはありませんが、本人の特性と合わない受験をさせるのはよくないと思います。本人が自分に向いている分野の勉強を思う存分できるのであれば、受験も別に構わないと思います。

**齊藤** そういったことに早く気づいて、小さいうちから周りが育て上げていくということですね。

**本田** だと思います。

**齊藤** 支援の社会的な仕組みという

のはどうですか。

**本田** 今は、全国の都道府県、政令指定都市に「発達障害者支援センター」ができています。そこがまず窓口になると思います。あとは市町村でも最近では障害者相談窓口で発達障害の相談を受けています。そういったところにまず問い合わせさせていただくと、その年代に応じて、その地域で利用できる機関を教えてもらえると思います。医療で診断を受ける場合もありますし、専門機関で、子どもですと療育を受けるですとか、大人ですと職業の相談につないでいただくとか、そういったことがなされていると思います。

**齊藤** 社会的支援もうまく活用していただくということですね。

**本田** そうですね。

**齊藤** そういう人たちの就職にはどういったアドバイスがあるのですか。

**本田** 就職には相性がありますので、本人の得意分野を生かし、苦手分野があまり目立たずに済むような職業を自分で選べる、そういうチャンスを保証していただきたいと思うのです。みんながここに就職しているから、あなたもここに就職しなさいではなくて、「少数派の職業かもしれないけれども、君はこういうのが向いてるよね」と助言していただく。本人もこういうのが向いていると思う、そういったところを選んでいただくのがいいと思います。

**齊藤** 興味が非常に深く、狭くという人で、そういうことが生かせるような就職ができれば最高なのでしょうが。

**本田** 理想はそうですね。ただ、そうもいかない場合もありますので、そういう場合は好きなことは趣味に生かしていただいて、嫌いではないことで仕事を見つけていただくといいと思います。

**齊藤** 辛い世の中で不安とか抑うつ  
の症状が出てくる。それに対しての対処法は何かありますか。

**本田** 不安や抑うつに対しては精神医学的な治療が必要になる場合があります。薬もごく少量使うこともありますけれども、なるべく環境調整や本人のカウンセリングで改善できるところを探していくというやり方のほうがいいと思います。

**齊藤** 全体的に見ていくということですね。

**本田** そうですね。

**齊藤** かなりの数の方がいらっしゃるということで、社会的にも一般の開業医さんも関心を持っていただきたいということでしょうか。

**本田** ぜひお願いしたいところです。

**齊藤** そういうお子さんを見ている小児科の先生方も関係するということですね。

**本田** そうだと思います。

**齊藤** ありがとうございます。